

る思惑から月中やや目立つて高下し、結局前月末より若干高い水準で越月した。これに対しわが国は、建値では錫が海外高に追隨して小幅引上げられたほかは、格別の動きがなかつたが、市中相場では銅が需要益々旺盛の折柄、輸入の不円滑も加わり急騰、海外に対する割高幅を一段と拡大したのが注目される。

(4) その他の商品

原皮はわが国のもち合いに対して、米国は屠殺関係の従業員ストのため品薄をよんで騰貴し、またセメントは海外

のもち合いに対して、わが国は続落したため、それぞれ割高幅を縮小した。

しかし、生ゴムは内外とも下押したが、わが国は小幅にとどまり、また苛性ソーダは海外よりわが国の値上り幅が大きいため、いずれも国際比価関係は悪化した。なお、硫安はわが国、英国ともに騰貴し、英国比ではやや好転したが、米国、イタリー、西独はもち合い乃至低落をみせたため、これら諸国に対しては割高の度をかえつて拡大した。

日 誌 (昭和 31 年 9 月)

国 内

- 4日 ○政府、非集中指定通貨(カナダ・ドル、スイスフラン、西独マルク、スエーデン・クローネ)に関する為替相場の自由化決定
- 政府、ビルマ政府との間に賠償第2年度(昭和31年度)の実施計画を決定
- 5日 ○本行、ワシントン輸出入銀行との間に第6次綿花借款契約調印
- 6日 ○都市8行、大阪証券金融会社に対する協調融資金利1厘引上げ(現行2銭1厘)
- 7日 ○本行、第6次綿花借款の国内金利決定
- 8日 ○政府、アルゼンチン政府と通商交渉仮調印
- 12日 ○全国信用金庫協会、振興預金利率引下げ
- 13日 ○鉄鋼三社に対する協調融資金利1厘引下げ(現行日歩2銭1厘、9月中期限到来手形より実施)
- 本行政策委、ドイツ連邦共和国通貨表示の手形を

- 引当とする外国為替引当貸付の利子歩合(日歩1銭5厘)およびドイツ・日本特別決済勘定にかかるとするアメリカ合衆国通貨表示の手形を引当とする同利子歩合(日歩1銭4厘5毛)を日歩1銭3厘5毛にそれぞれ改訂(13日より実施)
- 14日 ○全信連、預り金利率引下げ(10月1日以降実施)
- 20日 ○政府、不動産銀行設立方針決定
- 政府、ギリシャ政府との間に本年度貿易計画決定に関する口上書交換
- 25日 ○政府、下期外貨予算を決定
- 26日 ○信託協会、指定金銭信託合同運用口の予定配当率の引下げ実施
- 27日 ○繊維品輸出会議(米国市場問題特別委員会)綿製品の対米輸出に関する自主調整措置の基本方針決定

海 外

- 2日 ○パキスタン、モハメッド・アリ首相辞任、内閣総辞職
- 5日 ○アイゼンハワー大統領、相互援助計画諮問委員会委員長にフェアレス前U・S・スチール会長を任命
- 西独レンダー・バンク公定歩合を従来の5.5%から5%に引下げ、6日から実施
- 6日 ○パキスタン、東パキスタン新内閣成立
- 7日 ○アルゼンチン中央銀行、外国企業の送金制限緩和を発表
- 10日 ○スペイン銀行、公定歩合を従来の3.75%から4.25%へ引上げ
- 11日 ○ガット会期間委員会ジュネーブにて開会(4日間)
- 米連邦関税委員会、日本製枕カバー輸入制限に関する公聴会開催
- 12日 ○パキスタン、スラワルディー氏新首相に就任、新連立内閣の成立

- 13日 ○インド、エジプトとの貿易円滑化のため50百万ルピーの借款供与
- 15日 ○中共、党八全大会を挙(27日まで)第2次経済5か年計画案を討議
- インドネシア・ソ連経済援助協定(借款1億ドル)成立
- 20日 ○アルゼンチン、世界銀行および国際通貨基金へ加入
- 中共・ネパール間に友好ならびに西藏地方とネパールとの通商交通協定調印(於カトマンズ)
- 23日 ○英仏両国、スエズ運河問題に関し国連に提訴
- 24日 ○世界銀行、国際通貨基金第11回年次総会および国際金融公社創立総会ワシントンにて開会(28日まで)
- エジプト、スエズ運河問題に関し国連に提訴
- 28日 ○アイゼンハワー大統領、毛織物関税引上関係法案に署名